

宗像医療情報ネットワーク (MuMIN) - 運用 1年半の経過

(社)宗像医師会病院顧問, (財)九州ヒューマンメディア創造センター 八幡勝也

1. 運用中のシステム概要

宗像医師会病院のオーダリング・電子カルテのデータを共有用のサーバに集約し、宗像医師会の会員17医療機関と共有する。

対象は、協力医療機関から宗像医師会病院へ紹介された受診者のうち本システムへの協力が得られた方である。平成13年度3月末で628名登録された。

登録されるデータは、

1. 処方
2. 検体検査結果
3. CT, MRI 報告書
4. 内視鏡画像
5. 診療録 (自由記載)

以上である。

これらの情報をイントラネットの形で、PHSによりアクセスして利用する。

システム概要

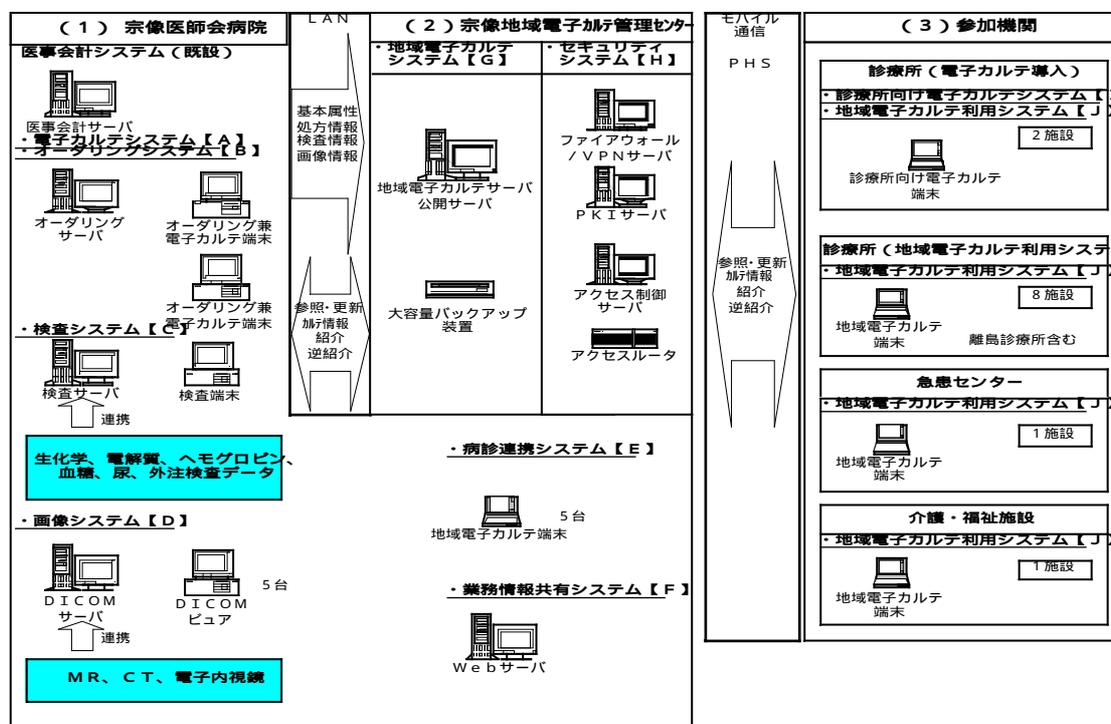


図1 システム構成

クライアントシステム

宗像医師会病院のデータを参照
処方、検査、画像

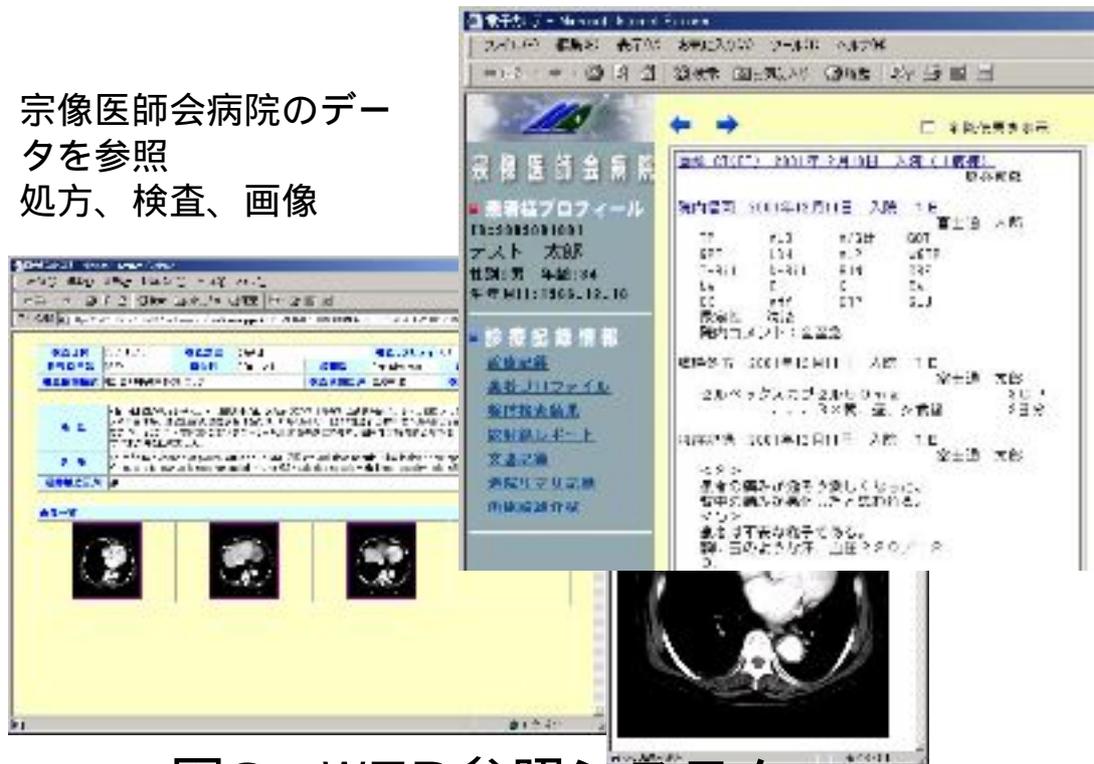


図2 WEB参照システム

アクセス情報の種類

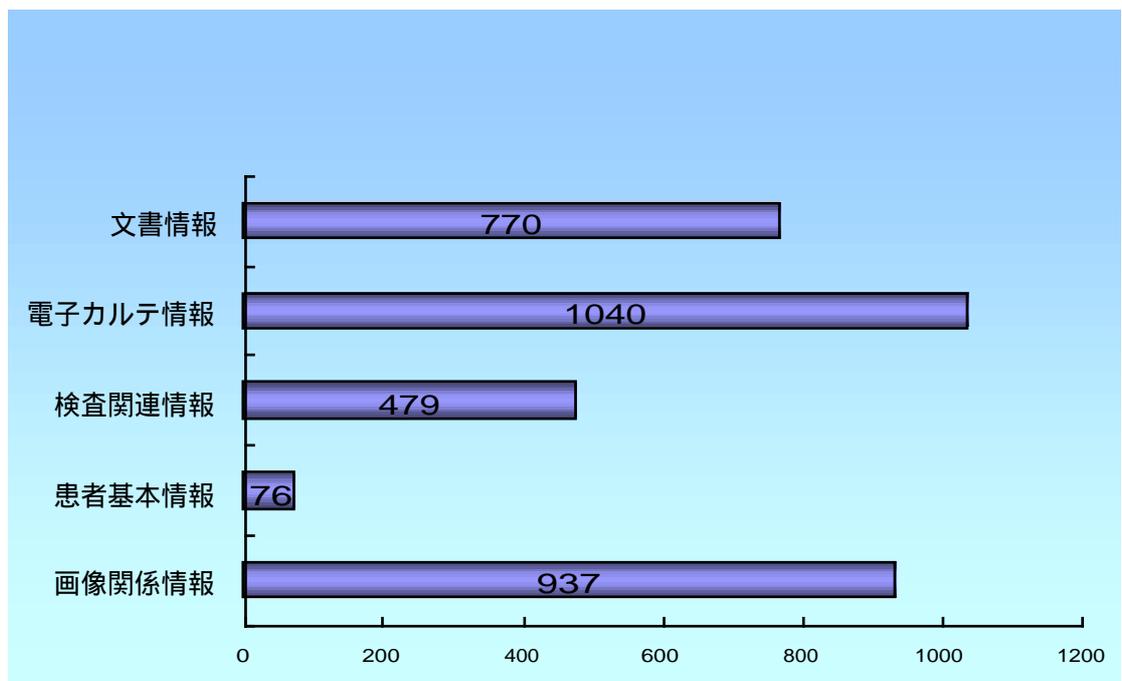


図3 情報の利用状況(01.12.17-02.10.30)

受診者のアンケート

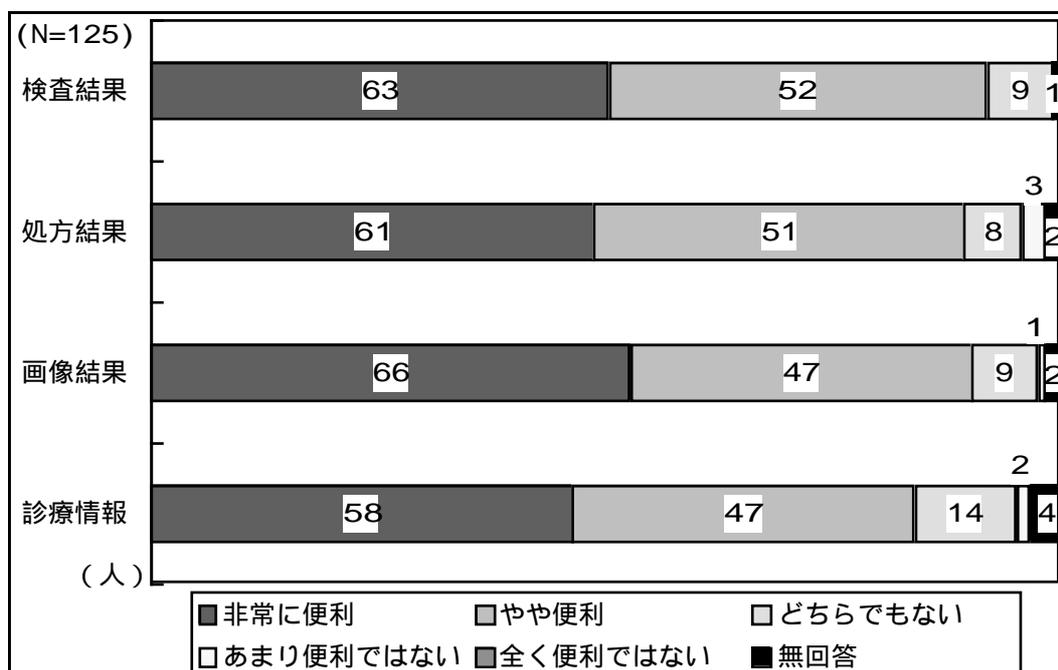


図4 患者アンケート結果

2. この2年で生じた問題点

病院のオーダリングシステムとしての問題点

保険改定時のレセプトシステムとしての問題点

アクセス方法の問題点(PHS(1SDN)網からADSLに出来ないか)

協力医療機関増加が技術的・費用的に難しい

3. アクセス制御のポリシーと問題点(開示に伴うデータの所有権など)

情報のアクセスは、基本的に病院内の情報を外から共有する形であるので、通常
のアクセスコントロールの運用で行っている。情報の所有・管理ともに宗像医師
会病院で特に問題はない。

一部の患者からインターネットでの利用希望があったが、データの印刷で対応し
た。

4. 今後の展望

利用医療機関の拡大と受診者個人の情報利用の要望、さらに健康増進分野などへ
の拡大の要望があり、そのためにはインターネット上に別の共有サーバーを構築
する必要が出てきている。

医師会および登録受診者などの意見を聞きながら次ステップの企画を検討中。